

むしむしレストラン

小一・石井 美玖

ある森のおくふかく、「むしむしレストラン」というかんばんがかかっているおうちがありました。「むしむし」とはなんでしょう。にくまんやしゅうまいのむすりようりをだすレストランでしょうか。いやいや、どうやらちがうようです。すこしみてみましょう。

りょうりにんのおじさんは、あさはやくからしこみをはじめます。もりのたべられるくさや、ミツバチからすこしハチミツをわけてもらったり、ざいりようあつめおおいそがし、じゅんぴができたらかいてんです！

「いらっしやいませ！」

おじさんの大きなこえがきこえてきます。

「おなかすいたあ。いつものね」

そのこえのぬしはなんとカブトムシでした。おじさんはすばやいうごきでじゅえきの入ったおさらをだしました。

「いつもより、しんせんでおいしいねえ」

とカブトムシ。どうやらまんぞくしてかえっていきました。おつぎは：

「おじさーん。やわらかいキャベツくださいーい」

おや、あおむしのちゅうもんですよ。おじさんは、

「はるキャベツはあまくておいしいよ」

とみずみずしいキャベツをだしました。

「おじさん、ありがとう！ なんだかサナギになれそうよ」

と喋ってかえっていききました。そうです。「むしむし」のいみは、むし、つまりこんちゅうたちのレストランだったのです！ つぎからつぎへとレストランにはむしたちがやってきました。きせつによって、レストランにくるむしたちはちがうけれど、きせつにあわせておじさんはおいしいものをよういしてまわっていてくれるようです。

森のおくで、ひっそりとやっているレストランですが、森じゅう、いや森のそとにまでおじさんの「むしむしレストラン」はしれわたっているとのことでした。

にんげんのりょうりはだしていかないのかって？ むしのすきなやさいやきのみでも、にんげんがたべられるものがありますから、いつでもどうぞ！
